

翻 訳

【史料】19世紀後半のマルタにおける 資源と産業について

——N・ザミット(編)『マルタとその産業』(1886年)(2)——

水 田 大 紀

【文献解題】

本稿では『歴史学部論集』第7号(113-122頁, 2017年3月刊)に引き続き、1886年に刊行された『マルタとその産業』の第6-7章を訳出する。訳出の目的や本書の書誌情報など詳細については、前掲号の文献解題を参照されたい。

本史料はイタリア語でまとめられたのち英語に翻訳されたものであるが、度量衡などの表記については当時、マルタで使用されていた単位でまず示され、つづいてイングランドの単位に換算されている。そのため、本史料を読み進めるためにはマルタ語に関する工具書も必要となる。非マルタ語話者にとっては、Joseph Aquilina が編集した『マルタ語—英語辞典』(全2巻)および『英語—マルタ語辞典』(全4巻)が、現状での最良の辞書と思われる。前者は8万語、後者は12万語を収録しており、様々な分野の語彙に対応している。一方、日本においてマルタ語は市民権を得ていないため、日本語で読めるマルタ語辞典はない。書誌体としては管見の限り、信森広光(編)『マルタ語基礎1500語』(大学書林, 1992年)が日本語でマルタ語に触れる機会を提供している。またインターネット上では、Google翻訳により単語・短文レベルでの、マルタ語の日本語訳がある程度、可能となっている。

最後に、今回の訳出箇所について触れておく。本稿で訳出した第6章「生産品」および第7章「動物性生産品の産業」では、当時のマルタの動植物・鉱物資源、それらに関わる産業の状況とそれに従事する人々、産業の将来的な展望についての考えがまとめられている。なお本稿内の註は原著のものであり、史料中の[]内は訳者による付記である。

【史料翻訳】

第6章 生産品

A. 農業

島外の者の目には、これらの島々における土壌の地質学的な構成は、耕作により島内で生み

出される生産力とかなりのコントラストをみせている。マルタの農産業は勤勉な労働の勝利であり対価である。小作農たちの疲れ知らずの働きぶりは、自然の生産力の不足やまともな耕作手段・方法の欠如を埋め合わせているのであり、だからこそ農家の仕事は田畑を開墾し、生まれ故郷の不毛さ加減から貢物を取り立てることだといっても、決して過言ではない。我々は故郷であるマルタを痩せた岩ばかりの土地に過ぎないなどと思われたくはない。この大げさな主張はこれまで幾人もの地理学者たちによって繰り返されてきたが、この地をみれば、マルタ人の腕前とひたむきな労苦の痕跡に気づかざるを得ないのだ。この国の土壌や耕作、生産品に関する概略をここに述べることで、我々は必ずや自分たちを満足させられることだろう。

(1) マルタの国土

一直線に並んだ三島〔マルタ島、ゴゾ島、コミノ島〕は小さなマルタ島群もしくは列島をなし、ヨーロッパの最遠地を構成している。この列島は南東から南西に29マイルの距離で伸びており、これはアベニン山脈やピレネー山脈の方角と一致している。三島最大のマルタ島は北緯35度53分56秒、東経14度31分45秒に位置している。最も近い陸地であるシチリア島岸からの距離はたった54マイルしかなく、アフリカの海岸からは189マイル離れている。同島の長さは17マイル、幅はたった7マイルである。隣のゴゾ島は長さ9マイル、幅5マイルだが、コミノ島は長さ2マイル、幅が辛うじて1マイルあるに過ぎない。

二つのわずかに隆起した地脈がマルタ島を二つの地域に分割している。高い方でも海拔750フィートを越えることはない。これらの島々は専ら、海中での懸濁した状態から沈殿した物質により形成された堆積岩でできている。

ときに薄かったり厚かったりする、植物が育つ土壌の層は硬い地表に覆われている¹¹⁰。丘の裾野に沿って無数の天然水源から湧き出た、かなりの量の良質な水が特定の地域の農地を潤している。さらに隠れた地下水脈もあり、それが計り知れない水の供給を支えている。

近年、様々な深度での丹念な調査を経て、膨大な量の水資源が見つかったので、ポンプでくみ上げ、鉄製パイプを用いて既存の導水路ラインに流すことで、結果として以前の供給量にかなりの上積みをする事ができた。水圧を使って給水量を増加するために導入してきた方法に関する議論は、ここで今話すべきことではない。我々がただ願うのは、このように揚水装置に加えて、地表にある水資源も集め活用すべきということだろう。地下に潜った水は雨水を単にろ過しただけで、思うに大地に浸みこむ前に集めたほうがはるかに好ましいだろうし、ポンプでくみ上げたり立て坑を設置したりする費用を省くこともできよう。

この国の降雨はやや不規則ではあるが、平均すれば年約18インチである。

気候は温暖だが、気温は夏には華氏79度から89度にまで上昇するほど変化する一方、冬でも45度以下に下がることはめったにない。冬の卓越風は北や東から吹き寄せるが、夏は南方や南東から吹いてくる。観測によれば、北風は年に200日、南風が吹くのは残りの165日間である。前者は冷たく乾いているが、南から吹き寄せる風は蒸し暑く、湿り気を帯びており、ときに砂

だらけで焼けた砂漠の平野からこの国に暑さを運んでくる。

大地はおおよそ平らで、なだらかな起伏を持ちつつ南から北に傾斜している。滑らかな地肌を持った、数え切れぬほどの谷があらゆる場所に広がっているが、これらの谷が数々の平野を隔てており、それらの平野は2-3フィートの高さに積み上げられた石垣によって囲われている。入り組んだ道路網と曲がりくねった小道がそこそこで土地を分断している。

景観で誤解する人たちは、マルタを痩せて不毛な島だと述べてきた。そう、島を知らない者たちにとってはまさにその通りであろう。同視点からみれば、起伏ある平野は乾燥し荒涼とした景観ではあるが、それは同時に、いってみれば石垣で覆われた、豊かな植生や豊富な作物、いい表せないほどの富を有する耕作地でもある。さらに好ましい視点からみれば、この景観はすぐに変化する。石垣は見えなくなり、大地はすぐに丁寧に耕され、十分に豊作をもたらすようになるだろう。

これら多くの作物が実る田畑を見つけることが肝心である。それらは、色鮮やかで贅沢な植生を人目から隠すとともに破壊的な風や嵐からそれらを庇う、生垣や柵の背後に広がっている。

森が失われているので、わが国の景観は決して励まされるような類のものではない。しかしながら、マルタは木材のプランテーションを有しており、その点は田畑同様、観察者の目から隠されている。地味が最貧の土壌や谷の縁沿いにある石だらけの大地にさえ、元気いっばいに咲き乱れるイナゴマメの木の実り豊かな生育に加え、泉から水を引いて作られた、緑豊かな小さなオアシスがあちこちに点在している。豊かな純水の源泉が湧く、谷の隅にあるこれらのひとつには、いまだその痕跡とボスケット [マルタで果樹園に植えられる灌木の一種] の地名を残す小さな森がかつて存在していた。岩造りのバーデーラ宮 [ボスケット庭園内にある宮殿で1586年に建設] を除き、見渡してみても現在、そこには何も残っていない。ここにはかつて武器を備える銃眼付きの胸壁をもった中世の城がたっていて、その周囲にはポプラやオークの巨木が生育していた。賃貸借契約のもとに貸し出された土地が、城が広大な耕作地帯を持つことを不可能にしていた。庭園は現在、マルタの樹木林となっている。ほぼ四方八方に点在するため、これらの庭園は、全てをひとつにまとめればかなり大規模な森林になるだろうが、それらは壁のようになっていて、強く厳しい風の影響から地所を防護する手段として数千の木々を役立てるために、それぞれの地所を囲うようにおかれたのであった。

(2) 耕地

マルタの全ての農地は、政府、教会、個人で配分されているといえるかもしれない。この耕地は、土地所有者が4-8年という期間で土地を貸しつけた、小作農の手に委ねられる。より長期で貸し出される土地もあれば、なかには期限を定めない借地さえある。この手法は、わが国における主たる土地所有者であるところの政府によってさえ、しばらくの間、受け入れられていた。ときに、実際には利用も利益もない共有地が、単に名目上のみ分配された有用地として、耕地用に売りに出されることもある。このようにして、荒地の一部は小作農層の手に渡っ

てきた。彼らは刻苦精励によってそれを肥沃な田畑へと作り変え、その結果として自らの力で地主となったのである。

マルタの農業は今のところ、極めて旧式の手法で引き継がれている。使用されている農具は全く平凡で、改良がくわえられていないものである。最初に作られたときと変わらぬ犁や、芝土を掘ったり起こしたりする鋤、斜めに固定された木製の歯を備えた鋤、その他にも同じような器具を使って、マルタの小作農は自身の田畑を掘り返し、土塊を砕き、肥料を入れ、種をまき、そして収穫するのである。

この全工程は定着した手法に従っており、それから離れることは難しくなっている。主により良い手段の採用や習慣的な輪作の多様化に関し、幾らかの改良がマルタの農業体制に導入されたのはごく最近のことであった¹²⁾。

土地を耕すとき、労務者たちは仕事や結果の理屈には従わないが、概して、個人的な経験則によって裏付けられた、ある伝統的な原則を有している。彼らは考える人ではなく、単に働く者なのである。またもし土壤の痩せ具合が穀物の年間収益を阻むとしても、果樹や飼葉、野菜は、[イギリス帝国の]陸軍や海軍に提供すると同時に、日常的な輸出用に余剰分を残しておくほど、国中の市場に豊富に供給できている。

1881年に行われた直近の国勢調査から、三島の全人口総計14万9,782人のうち、農業人口は以下のような分布であることが推測できる。

野菜づくり.....	209人
農場労働者.....	1万2,149人
羊飼い.....	657人

(3) 生産物

この国で最もありふれた生産物といえば、小麦や綿花、クミン、玉葱、飼葉、ジャガイモ、その他の重要度の低い野菜である。

以前は主な生産物は穀物と綿花であった。穀物は未だにこれまでと同じ割合で耕作され続けているが、その平均的な収穫高は人口の1/3を養うにも十分とは言い難いものである¹³⁾。価格下落のおかげで、国の天然産物である綿花はほぼ完全に放っておかれている。アメリカでの南北戦争の間、綿花は島中でかなり広く栽培されるほど高価格になったこともあった。現状では綿花は大失敗で、年一回の収穫や、未だに細々と輸出取引がある綿製品類用の原料を供給するために作付けされるに過ぎない。

綿花栽培は、アニシードやクミンの栽培との輪作で行われており、過去6年間でのこれらの農産物の輸出平均は、クミンが2,427マルタカンター、アニシードが100マルタカンターと見積もられている。なお1マルタカンター=170イギリスポンド [1ポンド=約454グラムのため、1カンター=約77キログラム] である。

ジャガイモは年二回、大量に作付けされ、大半は国内消費のために備蓄されるが、大量に輸

出されてもいる。公式統計からは、ここ6年間(1879-84年)で平均11万6,588カンターのジャガイモが海外に向けて船積みされたことがわかるのであり、特にイングランド向けにマルタの農作物は、連合王国のそれに2カ月先駆けて作られている。

その他の野菜の栽培、特に豆やエンドウ豆などの栽培は、種子の形でわずかな島外需要に加えて大きな国内消費があるため、さらに高い重要性をもっている。

また畜牛用の飼料も地域農業の重要な一分野となっている。総計でおおよそ2万頭に達するその他多くの家畜に加え、それは仕事に従事させるか屠殺用に太らせる畜牛1万5千頭分の餌を提供している。

玉葱も家庭消費と輸出との両用に、膨大な量が栽培されている。過去6年間の平均的な輸出貿易量は2万2,139カンターである。

これらに続いて、オレンジやレモン、ザクロ、桃、リンゴなどのような果樹園栽培の果実が売られる時期が来る。これはマルタ人の中で急速に伸びてきている産業である。公式統計によれば、上記の期間だけでもオレンジの平均輸出量は23万8,746ダースであった。しかしながら、この数値は資料内で貿易商から報告されたものよりもかなり少なく、商人たちは他の果実の数値が50万キログラムを越える一方で、オレンジも年に60万ダースの供給量があるとみなしている。

地方消費が高いトマトも、当地では寒冷地よりも早く成熟するので、大量に島外に向けて船積みされている。またアーティチョーク〔朝鮮薊〕も20万ダース程度、輸出されている。

葡萄の栽培は、アルコールの蒸留が禁止されて以来、家庭消費される他の果実の水準まで減少している。しかしワイン造りは、商売の規模では行われませんが、完全に顧みられないわけではなく、特にゴゾ島では毎年ほどほどの量が生産されている。約6万5千ガロン〔1ガロン=約4リットル〕の絶品ワインが毎年、同島で醸造されていると推定される。さらに、莫大な地方消費を除外しても年平均で3,149箱のその他の果実や野菜が輸出されている。

作業のために利用されるか食料として消費されるマルタ固有の動物たちは、以下のとおりである。

1. ウシ亜科の種としては牛が飼われているが、これは完全に固有種であり、体の大部分は焦げ茶色、立派な肩高で、小さな頭部と小さな角をもっている。
2. 大型種の雄牛は、生後15ヵ月から、完全に成長が止まる年齢の3歳までの間、繁殖目的で飼育され、その後、肥育されて屠殺される。

割合は少ないものの、ゴゾ雄牛は実に5歳まで繁殖に適しており、ゴゾとマルタの牛は両者とも脱穀場で働き、荷車に繋がれてゆっくりだが確実な歩調で進む。

ゴゾ牛は体表に斑点があるマルタ牛とは異なり、身丈がそれほど高くなく、頭部が比較的大きく角も長い。また牛乳の量も多いが、その一日の平均産出量は8-12クオート〔1クオート=1/4ガロン=約1.1リットル〕、つまり2-3イギリスガロンに等しい量である。

3. イギリス牛(アンガス種)はサー・ウィリアム・リード〔マルタ総督を1851-58年に務め

- たイギリス陸軍将校]によってマルタに導入された種であり、島内で繁殖して牛乳を大量に生産している。
4. より小型の動物としては、栗毛の小さな頭部と立派な額を持ち、角はなく、長いたれ耳で白毛の羊がいる。その肉は美味で、とても滋養のある乳を一日2クオート産出する。これからチーズが作られるのだが、それは小作農に非常に珍重されている。このチーズはかなり広範囲に販売され、マルタ人が殖民しているエジプトやその他の地域に輸出するために加塩される。
 5. マルタ山羊は形が良く、白や黒、もしくは赤みがかかるか、ときにはそれらが混ざった、長く柔らかい羊毛を持つ。山羊には2種類があり、一方は短耳、他方は長いたれ耳の種である。一日に2クオートから4クオートの乳を産出するが、マルタ以外の温帯気候地域に輸出されると、その良質な特徴を失ってしまう。
 6. 馬に関して、マルタ人には牝馬が貴重とされている。牝馬は素晴らしい動物で、機敏で元気である。雄馬は危なかつしい性格で、それほど高く評価されることはない。
 7. その他の動物の中で、最初に触れるべきは雄ロバである。この動物は体格が世界で最も優れており、繁殖目的で他国によく求められるため、幾頭かはアルジェやコンスタンティノープル、アメリカに送られている。マルタ雄ロバは黒く艶やかな色と口や腹のあたりにある白毛の評価が高く、3歳から12歳までが繁殖目的に適している。
 8. ラバは活動的で力強く、一日12時間働かせたり石材やその他の重荷を運ばせたりすることができる。ラバはかつて四輪車を引かせるために利用されていたが、より速いという理由で、馬が現在はその代わりとなっている。
 9. 一般のラバより小型でそれらほど遅しくはないバルレッタラバは、馬と雌ロバとの間の子[ケッティ]である。
 10. 体格が小さく、体色は黒で腹部が白い1/3ロバの種は、子供の乳母車のために使役される。雌ロバは乳が有益であり、また小動物であるため、病人に対して寝室で温もりを与えることができる。
 11. その他の動物では混血種のブタが飼育されているが、これは地方消費のためにギリシアから輸入された野ブタとの交配によるものである。ゴゾ島には、よく繁殖するアメリカ産のブタに似た他の輸入種がいる。
 12. 2種類の兎もおり、一方は食肉のために、他方は毛皮のために飼育されてきた。赤みを帯びた体毛のこの動物の数はとても多いが、飼料費はかからず、各地で、特に地方の人々によって消費されている。
 13. 家畜化された鳥類のなかでは、孔雀や鶯鳥、家鴨、七面鳥、ホロホロチョウが飼育されているが、際立った特徴はない。
 14. 中型のマルタ産雌鶏は平凡な種であるが、35日中2日を除いて、ほとんど毎日卵を産む。

15. 他の外来種もいるが、ドーキングブラマー種 [インドのブラマプトラを起源とし、上海を経て19世紀半ばにイギリスとアメリカに渡った大型な鶏の品種] やバンタム鶏 [チャボ]、チャイナコーチン [中国原産の大きな鶏]、愛好家により飼育されたその他の種のように、それらもマルタに順化している。
16. 2種類のマルタ原産の鳩が飼育されている。取り立てて特徴がない大型種と、鳩小屋のなかで生活し牧草地を餌場とする小型種である。これらに加え、伝書鳩やバーバリ諸国 [モロッコ、アルジェリア、チュニジア、トリポリ地域の旧称] から輸入された品種、クジャクバトなどが飼われている。
17. 犬も数種飼われている。例えばグレイハウンドなどだが、それらは完全な固有種で、灰色がかった体色をし、まっすぐに立った耳と長くカールした尾を持つ。兎狩り時には、フェレット [鼠や兎を狩るために家畜化されることが多い] とともに使役される。猟犬は頑強で均整のとれた体をしており、一般的に飼育されている。最後に有名なマルチーズが飼われているが、それらは非常に希少性の高い動物であり、カールした白毛の長毛種で極めて小型、大きく黒い目を持ち、とても賢い。
18. カナリアも飼われている。販売用に繁殖されたものであり、オウゴンヒワ [ゴシキヒワ] と交配した混血種1種が売られている。このカナリアは非常に愛らしく、美しい声で歌い、高値で取引される。また地中海の他地域に向けて広く輸出されてもいる⁰⁴⁰。

B. 商業

地中海で最も重要な港湾のひとつを保有しているため、その利便性と商業活動という二つの要素により、マルタは注目を受けるに値している。昔から名声を博し、地中海の中央部に位置する、世界最大かつ最も安全な港のひとつであるマルタの港は、島自体にとって真に天からもたらされた資源であり、この土地の商業を發展させ、貿易世界での競争を勝ち抜くための普遍的な根拠となっている。

蒸気の発明により航海術が被った変革と帆船から蒸気船への結果的な置き換えは、帆船を中心とする我々の昔ながらの船団が消えうせる原因となっている。30年前まで、様々な大きさの船舶による優秀な船団がマルタの海域には航行していた。行き来する旅客を運んだり釣りをしたりするために使われる2千艘の小舟については考慮しないとしても、積載量12万9千トン相当で約2千人に達する船員を持つ、160隻を越える大型船舶が、マルタの船団を形成していた。

いってみれば、生まれも育ちも海といえるマルタ人船員は、その技術と船乗りらしい素質で知られており、輸送品を船積みするために集められた資金は、個人の主な収入源のひとつをなしている。マルタの造船所で建造された船舶は、その優美な船体と速度ゆえに注目を集めた。マルタ船は優れた竜骨と大きな帆柱をもつ丈夫な船舶で、それゆえに貨物を満載しても、他国の船舶と比べてよくバランスが取れていた。この安定性は帆柱の寸法や船殻の比率の正確さによるものであった。当時は有能な建設者の管理のもと、埠頭の大部分が船の建造や修理を行う

ための広大な造船所であった。

蒸気による航海術が帆船に取って代わり、造船工やその他の技工がイギリスの軍艦のより良い調整役を諦めざるを得なくなった代わりに、彼らには沿岸部での港湾拡張作業の現場が提供された。しかし海軍産業はすぐにマルタの海岸から姿を消し、造船業者や造船工、船長たちは職を求めて散り散りになってしまった。かつてのように1万人を越える熟練工で賑わい、もう絶えて久しい活気に満ちた金槌の音を聞くことができた時期以降、今は陰鬱な静寂がこれらの海岸沿いを支配している。

当時計画されていたスエズ運河に関連して作成された推算是、海運業の拡大に備えた広範囲に及ぶ施設を根拠とするものであった。このため、大きな火薬庫や石炭庫、船溜まりが新しい港湾の隣接地沿いに建設され、オイルタンクや穀物倉の数が倍になり、バラ色の未来への期待が確かに大きくなった。しかしこうした繁栄の夢は別としても、万国から数多くの蒸気船が到着し、協力的で忍耐強いマルタ人石炭運搬作業員によって毎年60万トン以上の石炭がそれらに積み込まれることで、有益な傾向が我々に都合よく起きるということも否定しえない。

商人社会の利便性や商取引の迅速性のために、前述の施設に加え、マルタには商業会議所の取引所と三つの銀行があり、また航行支援に有益な援助を提供する数隻の船以外にも、船舶修理のあらゆる面に対応するため、地中海域では唯一の泊渠〔ウェットドック〕がある。20社の汽船代理店（その4/5はイギリスの会社）や以前は64社あった海事生命保険代理店の存在が、マルタの商業的な活力の大きさを明快に示している。

輸出入額も急速に伸びつつある。54年前の1831年にこの価額はたった215万1,511ポンドを計上するにすぎなかったが、1862年には合計で658万1,211ポンドに達し、そして現在では輸入の平均価額だけでも1,816万5,204ポンドとなっている。国内消費用の輸入品に対する関税収入もこの進展と肩を並べている。関連して、1827年から1831年にかけてあげられた収益の平均総額は6万ポンドを越えなかったが、現在では既に20万ポンドを上回っている。

島の商業は大部分を輸出入貿易に依存している。1881年の国勢調査によれば、種々の品々を販売するための船舶1,749隻と、売り買い合わせて2万人の小売商が二島に存在した。

地方産品の輸出でも、50年前には15万1,596ポンドの価額だったものが、ここ6年間に得られた平均値では大幅な拡大をみせていることが示されている。

これらの島々で商業に従事する人口は4年前の時点で1万9,980人いたが、その内訳は輸出入を行う商人たちや小売販売業者、これら二つの業種に取引で結びついた職種全般であった。

C. 製造業

(1) 鉱物性生産品

◇ 石材

この島の土壌は、建築目的で用いられるある種の石材を大量に切り出す無尽蔵の採石場と考えられるかもしれない。それは容易に加工され、装飾や趣味の作品にさえ用いられる。マルタ

石製の手の込んだ工芸品は、ヴォルテッラ [イタリア西部トスカナ地方の都市] で製作された雪花石膏細工やカラーラ [トスカナ地方北西部の都市で彫像用大理石の産地] 産大理石の作品のようである。単一色にも関わらず、その肌目や多彩な形状の見事さは、マルタ石に他の光沢のある鉱石の良さに比肩する優美さを与えている。最高の精度と熟達度をもって、枝付き燭台や花瓶、鉢、欄干、彫像、その他あらゆる装飾品がこの石材で生み出されている。さらに優れた図案を備えられたなら、これはわが国にいつそう多くの収益をもたらす得る産業になるであろう。ときにデザインは彫刻の分野において、昔ながらの陳腐さや、常に変わらない伝統的な形態と図案の繰り返しに代わって、幾ばくかの目新しさを提供し得る。様々な組織をもつ、この産業部門は現在、140名の熟練工に雇用を与え、小規模ながら海外との取引も行っている。またこの部門はロンドンとパリでの国際博覧会において賞を獲得した。

石灰質の鉱物が大いに活用されているが、マルタにとってのそれは、イギリスにとっての石炭と同様である。その独特な品質や硬度、耐久性は、家屋建築に際しては安価で堅牢、優美という強みをもたらす。柔らかく白い石材であるので、あらゆる形式の建物に利用され、建築士の急な要求や彫刻家の気まぐれに対しても容易に順応できる。この石材の大規模な採掘はかつて、海外での使用を目的として塊や板の状態で輸出され、今もなお幾人かが交易に従事するような、この国に年間4万ポンド以上をもたらす一大産業となっていた。この鉱物の採掘に雇用されているのは約4千人で、石材は現在では輸出目的よりも家屋の建築目的で使用されている。

マルタには性質の異なる7種の砂岩があり、そのなかでたった3種のみが空気の酸化作用に耐性を持つ。それは極めて多孔質で、建物内の湿度を下げるため、防水塗料としては湿気の効果的な吸収を妨げてしまうセメントに代わり、一階全体に塗布されるのが慣わしとなっている。

その他の性質を持つ石材のなかにも、当地で様々な用途に用いられているものがある。硬質さでは大理石よりも硬く、白色から鈍い灰色や黄色まで多様性にとんだ色彩を持つ、一種のトラバーチン [石灰華] は磨くとすぐに艶を帯び、美しい輝きをみせる。また美しい種類の雪花石膏や大理石もある。これらはあちこちに散らばっていて少量しかみつからないが、大抵はゴゾ島で得られる。

マルタには鉱床がないので、未加工状態の金属が海外から輸入され、ここで熟練工の技術に供されるのである。

金属製品は以下の項目に分類される。

◇ 貴金属

貴金属製品はこの国が一流の名声を享受する要因であり、これらの産業のなかでも最も規模が大きいものである。

最も価値の高い生産品は金銀線細工である。巧妙で、かつ細部まで高い精度の対称性を持つ製品であるそれは光のように透き通っており、まさに芸術的な優美さといえる。強力なはんだ付けが一定の頑強さを細工の優美さに与えており、おそらくそのような理由から、我々の金銀

線細工はジェノアやその他の地域で作られた部類の、より貴重とされるような生産品と比べても好意的に受け止められている。この産業の美点を完璧に機能させているのは、他よりも的確なデザインや滑らかで見栄え良い形状であり、また彫刻細工を理解し、掛け枠細工を役に立て、趣きや優雅さを持つあらゆる種類の狙いがうまく採り入れられたこれらの金属製の網細工（もしくは蜘蛛の巣）を補助するための、小さく洗練された薄いはめ込み板である。

また美しい瓶や宝石、あらゆる種類の装飾物に押印や打印、彫刻を施すことについて、この作業は金と銀で行われるのだが、ときにそのせいで見事な仕上がりや恰好、目新しさを欠くことになる。地方産業博覧会が行われた1864年以来、この技術は著しく向上している。

労賃を含め、この国で製造された貴金属の価値は、総計で年に4万ポンドに達すると推定される。この業務には400人の熟練工が雇用されており、取引は主に地方で行われ、膨大な量がアフリカに輸出されている。

◇ 鉄細工

鍛冶業は、2-3種類の受注生産品や個人技術の修練として創作された品を除き、あまり発展していない。工作物のもっぱら、イングランドやトリエステから輸入された棒状地金を材料として製作された金敷や鑪である。マルタの鑄物職人はとても器用で進取の気風に富むが、政府の製造場や作業場で雇用される者を除いて、彼らの多くが働き口をみつけられるわけではない。鑄鉄品は全て海外からやってくる。炉や金槌で作られた小物の製造業では卓越した完成度が達成されているが、これはやって当然の手法や適切な工具の不足を補ってきたおかげである。例えば、巧妙に考案された錠前に加え、金庫や秤、車のバネ、鉄製の寝台架、商売としてというよりも試作品として製造された他の様々な品々、安全のために階段に沿って、そして窓や歩廊用にしつらえられた手摺りは、マルタ人の生まれもった腕前を示す優れた実例と考えられるかもしれない。様々な太さの条鋼を直線や円形の支柱と巧みに組み合わせることで、または精巧に彫られた葉飾りを用いることで、美しいデザインで素晴らしい品質の透かし細工が生み出され、それが優雅さと堅実さとを結び付けるとともに、窓やバルコニーに魅力的な外観の勾欄を提供している。

これらの柵は錬鉄製のものほど脆くはなく、より高品質かつ希少であるので、製造業者たちの名声を確立してゐる。

約250名の製鉄工が二島内の様々な鑄造工場に分かれて働いている。

◇ その他の金属

おそらく幾つかの例外は別として、銅や青銅、亜鉛、錫には注意を払うべき重要性はほとんどない。仕上げられたものは何でも、機械の補助や適切な工具なしに行われる。それはただ単に、そのような手法で完成できる域としても到達困難な、ある技能に関する最大限の努力の問題に過ぎない。この職業に従事する熟練工は専ら物品の修繕目的で雇用されており、それゆえ私生活の危機に直面しても仕事で輸出が行われることはない。しかしながら、特筆すべきこと

は教会の鐘の鑄造で示された技術である。深く澄み切った音色と最も名高い鑄造工場の仕事に勝るとも劣らない成功をもとに、重さ約4トンの鐘が作られている。

直近の国勢調査(1881年)によれば、この業種に従事する人は112名しかいない。

◇ 陶業

手作業や単純な鋳を用いて作られた簡素さを持ち、先史時代の形状をしたテラコッタ製の家庭用品や普段用の食器に加え、水差しや広口瓶など、全ての生活用品が今日、轆轤で作られる。

浅浮彫のとても優美な壺も作られるが、我々の陶器への琺瑯の塗付はまだ実験段階である。

◇ 鍍金業

木材や石材への鍍金はかなり完成の域にある。胡粉〔天然の炭酸カルシウムを粉末にしたもので顔料などにも用いられる〕を使った箔置きでは、粘着剤での鍍金が金属自身の良さと張り合う一方、浮彫中の装飾の細部が照り輝く艶出しによって人目を引いている。

くぐもった部分と光沢のある部分の見事な組み合わせや木目調装飾の美しさ、素晴らしい装飾作品に塗付された鍍金の構成、木材への端正な銀鍍金、上塗り合剤を用いた寸分たがわぬ金製の模造品が立証しているのは、これらの奢侈的な技能が我々の間でかなり進展していること、そしてそれらの生産品に対する需要が日に日に増しているということである。これらの職業に就いているのは、せいぜい40名といったところである。

◇ 刺繍細工

ほぼ完全に女性の繊細な手で行われている刺繍の優雅な芸術が、図案通りに完成することはめったにないが、発表された作品の出来栄えはしばしば優れたものである。製品はほとんど神聖な礼服や教会の家具にあてがわれる。これらの作品は、趣味がいいので大半が買い求められていく。大抵の場合、刺繍を施された金の輝きに感嘆させられるが、完全に行き当たりばったりの針縫い次第なので、しばしば何の効果も發揮しないこともある。しかしそれらは偉大な技術をみせており、さらなる訓練が必要というだけのことである。80名を越える女性とせいぜい2-3名の男性がこの職業に従事しているが、この点は当地では古い時代から始まっている。綿布や絹布、毛織物、とりわけレースへの刺繍品はより一般的、かつより広範に浸透しており、その時々流行に従って女性の衣装が飾り付けられる。

◇ モザイク細工

大理石を使った作品はマルタのモザイク細工として名高い。この著名な製造物はロンドン国際博覧会で称賛・表彰されており、イングランドやその他のヨーロッパ諸国に輸出されている。二島のあちこちでみつかると有色の雪花石膏塊や、既に言及した、磨けば光る多種多様な硬質石材を除き、マルタで細工を施される様々な性質の大理石は海外から輸入されている。

◇ 海洋採取物

海塩採取に関しては、海岸沿いにある小規模な塩田以外にも、単独で地方消費に必要な分量を生産する、広くおあつらえ向きの産地があり、地方消費で残った分が輸出に回されている。

帝国基準でいうところの6千クォーター [クォーターはロング・ハンドレッドウェイト (long hundredweight) の1/4の単位。1クォーター=28ポンド、約13キログラムに相当] を越える量の塩が毎年生産される。漁業を除き、我々の領海は他の重要な資源を何一つとして産出しない。2-3年前、ゴゾ島近海で珊瑚の群生地が発見されたと報じられたが、今のところその存在についてそれ以上のことは聞こえてこないし、将来的な見込みとしても、そこから得られるだろう利益は採取に必要となる莫大な出費に見合わない。けれども言及に値するものがないともいえるその他の鉱物産業も、この範疇に属している。

◇ 写真撮影業

マルタ人の間では、写真撮影業は趣味というだけではなく商売でもある。愛好家が数人いるのと、正規のスタジオがちょうど20カ所ある。適切に管理が行われているこれらのスタジオのなかには、いかなる点でも他国で製作されたものに劣らぬ出来栄えて撮影された風景写真や肖像写真など、高水準の技量に到達しているものもある。良い商売がこの職業では行われており、写真を通じて外国人や観光客は我々の歴史的な遺跡や芸術作品、マルタ人の創作能力について理解するのである。

◇ 石版印刷業

マルタの土壌は特にリトグラフに適した材質の石材を供給しているが、現在では写真や油絵風石版印刷の方が優れているため、この技術はほぼ完全に廃れており、書くことに関してさえ、より優れた代用となる電動ペン [トマス・エジソンが1875年に発明した謄写版印刷の一種] にその座を明け渡している。

◇ 印字業

改良が加えられてきたにも関わらず、我々の間では、印字鑄造業が有益な産業としての名声を得るには至っていない。

◇ 活版印刷業

ここ50年ほど我々の間で自由に取引が行われている印刷業もまた、幾つかの改良が施されてきた。政府の印刷局を除き、個人営業の印刷機が16台稼働しており、おおよそ72名の植字工に雇用を与えている。

◇ 時計作り

それ自身で特に作業場を持ってはいないものの、時計作りは様々な人々に職を与えており、彼らは最上級の精密さをもって複雑で精巧な仕掛けを修復することができる。マルタの時計職人は、特別な訓練もなしに、独創的な工夫によって何かしら新しいことをこれまで考案してきたのであり、ごく単純な振り子から最も複雑な時計までの作業をこなす能力を有している。

◇ 製版業

幾つかの例外は別として、愛好家により継承されている銅版画や木版画については、語るべきことは何もない。

◇ 装飾文字書き業

聖歌集に採用された贅沢の古き手段である装飾文字書きという中世的な技術は、わが同胞によって完全に復元されている。当時の様式に関する正確な知識、仕上がりの輝かせ方、手堅い鍍金術、驚くべき繊細さの細密画法は、使われなくなる前にあっただろう技術と比べても遜色ない品質である¹⁵⁾。

◇ 機械による製氷業

島内には製氷施設が2ヵ所存在している。これらのおかげでマルタ人は海外産の氷の輸入に頼らずに済んでいる。

◇ 石灰

大量の石灰が石灰窯から継続的に産出されている。石灰は嚙碎された石と混ぜられ篩過されて、建築目的のためのセメントとして使用される。また石灰は住宅や壁の漆喰、貯水槽や暗渠の被覆にも大量に用いられる。砂と混ぜたり、さらに良いのはポゾラン [シリカ質の微粉末でコンクリートの混和剤の一種] と混ぜたりすることで、強く耐久力のあるセメントができる。

(2) 植物性生産品の産業

この部門の産業はより広域に及んでいる。

◇ 粗綿布およびその他の薄手織物

マルタ人の中では、綿工業は最もありふれた産業のひとつであり、確実にるか昔にまで遡るものである。この生産品に関する限り、そのごく一部は原綿のまま輸出され、残りは島内で製品にされる。粗く厚手の生地に織りあげるために手製もしくは機械を使って紡がれ、一部は帆に使用され、また一部はバーバリ諸国に輸出されている。この地方では、マルタ産の生地は衣類用に売られている。幾つかの障害がこの産業の成功の妨げになっていると考えられてきた。しかし今のところは、初めから予示され、そのせいで全面的な崩壊さえ予想された欠点の全てが当たっていたわけでもないようである。かつてマルタの綿布は大部分が他国、特にイタリアに輸出されていたが、イタリア政府が自国産業を保護する観点から我々の製品に高い関税を課し、結果的にこれらの品物は大幅に値下げせざるを得なかった。しかしマルタ産綿布は未だにギリシアや東方諸地域に大々的に輸出されており、これらの地域では綿布がランプの芯や店舗などの日よけ、蛇管、その他の目的に活用されている。

粗綿布に加え、他にも良い品質の、外国の服飾生地を模倣した種々の薄手織物が島内で生産され、国内の人々に使用されている。それ以外の特産品としては、その柔らかさと美しさで有名なナンキン綿の毛布があるが、これは一般的な生地の色合を真似しているせいで流行らなくなりつつある。ダマスク織は派手な色彩の生地で、金の縞模様の場合や全て金色の場合、その他にも関心を惹くような多様性に富んでおり、国内で加工されている。しかしこれらの製品では、マルタ市場で在庫過剰となった類似の外国産製品との競争に勝つことが期待できない。なぜならダマスク織は、現状では品物が適切に流通していない上に、技術経験なしに織られてお

り、また一般的にみても熟練するための指導支援が行われていないからである。

粗綿布と一緒に、この種の製品が得ている商業価値は最初の想定をはるかに越えている。この国において綿布は未だとても重要な部門である。1881年の統計報告によれば、この商売で生計を立てている人は8,511名に上っている。なおこの人数にはこの商品で商売をする人や、平均的にかんりの利益を得ている人は含まれていない。仮定として、そのような職人の数を現実的に8千人と換算し、彼らの生活費を一日一人頭で8ペンスと見積もると、合計で年に約9万6千ポンドの収益が発生することになる。さらにひと財産と見做される額を貯蓄している人々のなかでも、これらの商品を不正に売買する者がもつ相当な利潤を加算してみよう。彼らの間で4千ポンドが流通していると考え、総計で10万ポンドという立派な金額が得られるだろう。毎年この製品に用いられる、イングランドから輸入された綿糸の価値は4万ポンドと試算されており、この合計の二倍が地方生産の綿の費用として支払われるべきである。このように、その質と美しさのおかげで既に大きな需要がある他の織物のより高い価値に加え、マルタ産の粗綿布や薄手織物の製造費は、染色にかかる費用を除外しても、すぐに22万ポンドに達してしまうだろう。

◇ タバコ

タバコは他国から葉の状態で輸入された後、島内で加工されており、下層階級の人々にとっての主要な収入源のひとつとなっている。タバコは極めて重要な品物と考えても差し支えなく、膨大な消費がなされている。概算ではあるが、葉巻一本の値段を1/8ペンスで計算しても、喫煙という合法で無害な習慣が島内で年間にして総計2万2千ポンド以上の流通をもたらしていることを、我々は証明できる立場にある。1881年に発表された統計報告によれば、当時で1,033人がこの製造業に従事していたと記されている。現状では、タバコの輸入業者の利益はともかくとして、もしこの製造業に雇われた労働者たちが日に一人8ペンス稼ぐと仮定するなら、既に製造のために支払われた金額の合計は1万2,396ポンドであり、仮に輸入されたタバコの葉の価格を1万ポンドで計算すると、先述の総和に達するのである。紙巻きタバコの製造は非常に大規模に行われており、大部分が他国に輸出されている。これらの紙巻きタバコの長所は、葉自体やその形・種類の選択によって、島の製造業としては既に高い評価を勝ち取っていることである。下層階級の女性や少女たちは大部分がこの製造業に雇用されており、作業は作業場、もしくは自宅で営まれている。トルコやイタリアのタバコ製品輸入に関しては、両国政府によって賦課された重関税が取引を幾分か束縛しており、その結果、目的を達するか、より離れた国々に自分たちの生産品を輸出するかという、胡乱で危険な手段を、タバコ製造会社などに思いつかせるのである（またその手段は実際に行われてもいる）。タバコ商店でも一店舗だけが、イギリスやその他の国々に対して年平均で500万本の紙巻きタバコの輸出を行っている。

◇ 藺草細工・麦わら細工

麦わら、もしくは扇状のヤシの葉〔棕櫚竹〕を使った細工品は、もうひとつの儲けの多い地

方産業をもたらしている。下層階級の女性たちは、同時に他の仕事に従事しているが、この製造業にも雇用されている。編み方には三重か一重のどちらかが用いられ、それを覚えるのは簡単であるが、実際にやるのはさらに簡単である。田舎の娘たちは、自分の羊の群れを追い農作物の世話をする一方で、見張り番をしたり歌ったり手遊びをしたりすると同時に、意識せずこの作業にあっている。この部門の仕事の種類は、多数かつ豊富である。海外からの需要を受けた供給量に照らして、選り抜いた低木の葉を材料として年間10万個以上の縁あり帽子が製造されている。こういったたくさんの帽子（麦わらや棕櫚の葉などで作ったさなだ）が、特にイギリス海軍や東洋への出荷のために作られている。品質の劣る葉は紐に加工され、年間で2千万ヤード（1ヤード=0.9144メートル）が製造されている。一部は椅子の底部に用いられ、残りはギリシアやトルコに輸出されている。箆もこの素材によって作られるが、東洋からの要望に従って、年間で10ダースから1万5千ダースまで供給量は変化する。炉火用の団扇以外にも、年に5万本以上の箆がこの材料から製作され、これらの大部分はギリシアに輸出される。いろいろな大きさや形をしたバスケットと食べ物籠も作られている。

これらの製品の基本的な原料は我々の土地では生産されず、沼地が豊富な場所でのみ成長するため、必然的にマルタでは非常に乏しいものとなる。谷間に自生する籐藪にとって、マルタにある数少ない沼地では不十分なのである。そのため、原料は海外から輸入されているが、安価であるため、かなりの利鞘が製造側に残される。

◇ 木工品

これらの製品は、マルタの大工にとってかなりの利益率でアフリカや東洋に出荷するために作ることができる椅子や荷馬車を除き、地方で使用する必要のある品目にはほぼ限定されている。とりわけ運搬車や台車は島内で組み立てられるが、その堅牢さや上品さは海外から輸入されたものに見劣りすることはない。しかし家具として最も流行している木工はマホガニー材かクルミ材である。意匠を凝らした家具の好見本の多くと同じように、象牙や銀までもがはめ込まれた、とても美しい黒檀性の箆筒の収納のなかには、マルタで製作されてきたものもある。日常的に使う家具の細工は非常に地味で、そのためこの種の品物の美しさに大きく貢献する優美さや巧みさを欠いている。ここまで骨董品的な家具について言及してこなかったが、それは売るために陳列されたものとの出会いともいえる。一般的にこの種の家具に関しては、奇妙な彫刻を施された同一の机、様式や意匠を全く気にせず設計された椅子、犬の形をした足を持つコンソールテーブル [窓と窓の間または鏡の下などの壁にぴったり据えつけるテーブル]、そして角に実用性とはかけ離れた装飾（明確な目的を欠いた癖のように、直角の部分にゴシック様式で縊り合された条鋼の他にも）が付けられた食器棚をいつもみかけることになる。この商売にとっては幸運なことに、現在良い手本を見習っている最中で、この業種は徐々に地歩を築きつつある。

一般の大工は縦材や唐松材を用いて仕事をし、概して窓枠や雨戸を作るのに従事するが、多

少の精密さをもつその他の大工たちは、取り決められた値段に従い、他の商品、特に家具作りに精を出している。大量の桶や樽、手桶といった、いわゆる樽類製造業者の手細工も、あらゆる種類の農具と同様に作られている。1,900名を越える職人たちがその様々な部門で大工仕事に従事している。

◇ 旋盤細工

大工と石旋盤工の店に据え付けられた旋盤で行われる作業は、ただ形を丸くすることだけに限定されている。種々の作業が行えることで、機械で旋削する細工は技工たちよりも、2-3人の愛好家によってよく知られている。

◇ 製本業

この区分では、本産業は既に長足の進歩を遂げていることが知られている。最も一般的なのは、俗に「半革装」といわれるもの、つまり書籍の背表紙が着色革で装丁され、題目は金文字で、側面が板紙で製本されたものである。その他の装丁もモロッコ革 [製本や手袋、手提げ鞆などに用いられる上等のヤギのなめし革] で制作され、上品さと堅固さを兼備したつくりとなっている。いうなれば、覆いの縁を防護する金箔押し装飾や革装本への装飾用の刻印、最近流行しているその他様々な装飾など、これら全ての長所は、書籍がとても上手く編成され、簡単に閉じるという事実とともに、場合によっては全く申し分がないものである。製本業者の数は60人を越えてはいない。

◇ 室内装飾業

この職業も十分に注目に値し、現在は外国の製品と自由競争することができている。

◇ 籠や詰め籠

あらゆる大きさと種類の、柳の小枝や茎で作られた多くの籠や詰め籠が島内では制作されている。200名以上の職人たちがこの業種に雇用されている。かなりの籠が農作業用に用いられ、細枝で作られた籠は運搬用に使われている。また方法としては、多くが建物普請での廃物を運んだり、蒸気船の係留時に石炭を搬入したり、石炭船から荷を降ろしたりするために用いられている。残りは様々な用途に売却される。

◇ 石鹼作り

島内では石鹼はほとんど作られていない。かつて需要が多かった品物は、現在ではもはや必要とされておらず、ゆえに供給量も非常に限られている。脂性物質は概してこの生産品に用いられ、ごくまれに動物の脂肪が使われる。たった一種類の石鹼だけが島内で製造されているといえるかもしれない。他国から大量に輸入され広範囲で消費がある、良い香り付きの石鹼を生産しようという本格的な試みは今のところない。マルタの石鹼製造業者の人数は現在、極めて限定されている。

◇ ニス塗り業

島内では、優秀なニス製品は不足しておらず、鮮やかな山吹色や銀色、真鍮色のニスがいくつかの作品で使われている¹⁰⁾。

◇ 楽器製作

島内では、弦楽器や金管楽器も際立った正確さや精密さで製造されており、修理も全て、極めて緻密に行われている。

◇ 縄作り

これは興味深い製造業ではあるが、帆船数の減少のせいで現在では大きな需要はなくなっている。手作業で製作されており、非常に重要な種類や品質のものは売却され、撚糸から大索まで、しばしば機械製造品よりも優れたものが生産されている。これは麻の選び方や繊維の緻密さ、少しも耐久性を弱めずに柔軟性をより向上した適切な撻り合せ方のおかげである。

この産業に従事しているのは200名を越えないほどの縄製造業者である。

◇ 食品製造業

食品製造に関しては、マルタの産業が地方消費分の需要と供給の域を大幅に越えることはない。美味しい練り物やビスケットが作られており、それらは以前には東洋に大規模に輸出されていた。現在は、製造方法が格段に向上したものの、供給は島に到着する商船にほぼ限定されている。トウモロコシ挽きは現在、蒸気動力の製粉機で行われており、それが徐々に風車やラバによる作業の代わりになりつつある。

◇ ワインとビールの醸造業

ビールやワイン、食用酢、アルコール飲料は一般消費用の品物と考えられるかもしれない。数年前まで、2-3軒の醸造工場が当地では営業していた。しかし非常に小規模とはいえ、島内でビールは未だに製造されてはいるものの、それらの工場は長くは持たなかった。

ワイン関連の産業は、当地で極めて大きな割合を占めてきたわけではない。マルタワインは、心地よい香り美しい色合いを持っているが、むしろ味が薄く不十分な醸造である。それは葡萄の木を無分別に選定していることや、発酵に際しての不適切な取扱いに起因する欠陥である。葡萄の蒸留は禁止されているので、ワイン醸造を行おうとする試みが大きな成功を収めたことはない。この産業は姉妹島のゴゾにより良い結果をもたらしており、かなりの量のワインが収穫期ごとに調達されている。ワインの年間生産量は80万ガロン [イギリスでは1ガロン=4.546リットルだが、かつて用いられたワインガロンの場合は3.785リットル] を越えている。同産業はそれ以上に人工ワイン [酒精強化ワイン] を扱っていて、なかでもマルサラ酒 [シチリア島西岸にある港町マルサラで作られた酒精強化ワイン] を筆頭に、人工ワインは需要が高く、海外の通人たちに大変好まれている。

この点に関し、マルタの産業では特色として苺や桑、柘榴製ワインの試飲品を提供している。

◇ 食用酢

食用酢製造業はよく知られており、かつ公平な取引が行われている。マルタ産の食用酢は、

その酸味の強さや心地よい香り、そして何より手ごろな値段（それが人の選択を意のままにする理由である）で名高い。

◇ 貯蔵食加工業

マルタで製造される貯蔵食は当然のことながら高く評価されている。当地ではあらゆる果物や豆類がアルコール類や砂糖、食物酢に漬けられて貯蔵されるが、島内で大いに消費されるのに加え、これらの貯蔵食は全て他国にも輸出される。イングランドでは知られていない多くの果物が当地では状態よく保存されている。李や洋梨、杏、桃など、果汁のとても多い果物は当地でジャムに仕立てられ、カリフラワーや豆、ケーパー [フウチョウボク属の植物で、花の蕾や若い実を酢漬けにする]、玉葱など、豆類や野菜類が酢漬けにされる。トマトは塩以外で、砂糖やバター、ときには豚脂を用いて保存される。また菓子職人も幾人かいる。イタリア南部では一般的なこの業種に、マルタの職人たちは従事しているのである。既に上品で需要を満たすことのできる会社が何店舗か設立されており、街の彩りとなっている。砂糖菓子は飲酒を誘うので、その消費は酒の消費と肩を並べている。

マルタでは高級なラム酒も遣り手の投機家たちによって醸造されている¹⁷⁹。このように島は、キナノキやユーカリ、董のクリーム、アルケルメス [臘脂のリキュール]、マンダリンオレンジに加えて、さらには発泡酒や鎮静作用のあるミント入り蒸留水、橙花水、ペニローヤル [ヨーロッパ産の葉に芳香があるハッカ]などを産出している。

第7章 動物性生産品の産業

◇ 漁業

動物性生産品に関連する産業のあらゆる部門のなかで、この部門は、間違いなく先導的な役割を担っているだろう。マルタ付近の深海には今と同じく156種類を越える魚が豊富にいたことが、魚類学者により確認されている。この深海近辺に位置する島の周囲で、漁業はより発達し、盛んに行われてきた。大規模な漁業が奨励され手厚く保護されてきたので、この産業が当地の産業収入に最も有益に貢献しそこなうことなどなかったはずである。ところが現状では、漁業のことなど顧みずに大魚がほとんどの小魚を食い尽くすので、約3,700人が従事するこの産業は不十分な漁獲量をあげるに過ぎない。水揚げした分は地方で消費されるため、それ以上の商売は事実上、労苦や危険を冒し、生命すら失うこともある無知な階級の人々により行われる。彼らは決められた規則の遵守を拒むことに固執しているが、もし彼らが規則を受け入れるなら、それこそ彼らにとっても大きな利益となるだろう¹⁸⁰。

◇ 牡蠣養殖業

牡蠣の養殖を啓発し推奨する目的で、数年前に大量の牡蠣が海岸線の幾つかの地点に撒かれたが、それに関して良好な結果が予測されたにも関わらず、計画はすぐに断念された。この貝

殻を有する軟体動物の無尽蔵で迅速な繁殖は現在、個人の投機家が輸出用にかんりの収量を得ることを可能にしている。

◇ 羊毛と絹糸

羊毛と絹糸に関しては、各所で述べられてきたことをただ繰り返すのみである。

「私たちが有する羊毛は思われている以上に重要な生産品である。国と畜殺場（そこでは1万5千頭以上の羊が屠殺される）は、毎年かなりの量の羊毛を供給するが、それは生きた動物か死んだ動物か、どちらかの剪毛から手に入る。マットレスに詰めるために羊毛を材料に使うという利用法以外にも、一部の粗布が羊毛で製造されている。もしこの品物が産業に昇華できるなら、とりわけバーバリ諸国が大規模にこの素材を我々に提供してきたので、それに代わってかなりの利益が得られるだろう。難しいのは取引を始めるためには出費が必要ということだけであろう。マルタの羊毛が上質な生地製造に非常に適している証拠がないことは事実であり、それは丈夫で容易には切れないものの、きめ細やかさと柔軟性に欠けている。マルタ産の羊毛は滑らかで長く、梳きやすいが、上等な生地用の品質に優れた撚糸を十分には生み出さない。しかし粗い布地なら製造できるのであり、それは上質な生地と同じだけの需要を国内外で確保することになる。上手く漂白され梳かれた厚手の毛織物は最高級の毛布を生み出すだろうし、マルタでも他の国でも大きな利益率で販売することができるだろう。」現在、我々は計画をさらに推し進め、当地でモロッコやレヴァント地方から輸入された品と同等の絨毯の加工が可能になるとさえ予測している。マルタ山羊の上質でしっかりした毛も、羊毛とは異なる有益な使い方が試み始められている。

絹産業は完全に見放されてきた。およそ60年前、イギリスの企業が島内でこの産業を開始したが、理由は不明ながらすぐに撤退してしまったので、現状ではその再建だけでも求められている。資本や作業場にかかる費用、もしくは長期や特別の訓練を必要とするような技能の不足という理由で、再建の過程に障害が生じることはない。実際、絹産業はそのかなりの簡易さが人気の理由である。例えば経験が我々に教えているのは、もし個人の手に残っていたら絹産業はより大きな成功を収めていたということである。

もし蚕が何を食べて生きているかについて疑問があったとしても、植わっている無用の木々を当面の急場しのぎで桑の代用品とし、かつてはかなり豊富にあったが、ある時期にひどく無分別に伐採された、絹産業に必須のこれらの滋養ある植物の喪失を埋め合わせる事が提案されるだろう。さあこの生産品を扱う商売に乗り出そう。そして間もなく、破産の恐れや失敗の全くない、考えつくされた投機が再興され花開くことだろう。マルタ人農夫たちは自身の小屋の物陰や羊小屋の周り、畑の隅で、蚕の食糧をすぐに増産し始めるだろう。それにより、家内で蚕は幼虫とともに働き、かくしてそれが貯蓄と副収入の元となるのである。絹の生産によく適した桑の木や、蚕が関わらずとも簡単な浸漬を行うことで、絹糸以外でも素材となるものを豊富に供給できる、衣類や用紙といった製品向きの桑の枝は、公道沿いや不毛な開放地に多く

植樹されるべきである。

蚕からもたらされる絹糸に加え、自生する灌木で作られた一種の絹糸もある。それは上質糸で、幾つかの製品に用いることができるが、今のところはほぼ使われていない¹⁹⁹。

◇ 獣皮や皮革

多量の獣皮や皮革が島内につぶされた雄牛や山羊、羊、仔羊から得られる。その総計は雄牛から獣皮1万5千枚、その他の種から皮革2万枚を数えるが、なかにはバーバリ諸国から輸入されたものもある。2-3年前まで、進取的な商会在パリに3万枚以上の仔羊の皮革を納めていたが、それは皮手袋製品の取引で非常によく知られたものであった²⁰⁰。

皮なめしは島内で首尾よく行われている。生産品は申し分ないものと考えて差し支えなく、地方消費の必要量より多い分は他国に輸出される。靴や鞍、旅行鞆、馬具などに関してマルタ産の革製品は外国産品に劣ることはなく、その精巧な仕上げや強靭さ、柔軟性、際立つ品質については、フランスやイギリス産のそれと同格に位置づけることができる。

◇ 馬具・荷鞍製造業

技術の高さと負担すべき値段の適切さの両面から、馬具や旅行鞆、荷鞍といった商品は求められないことがない。

◇ 長靴・短靴製造業

この製品はロンドンやパリのものとほぼ肩を並べるが、形の優美さや信頼性の点でもさほど劣っておらず、また値段の面でも他国の商品より高いということはない。大きな需要のおかげで、この商売は靴屋全員を積極的に雇用し続ける原動力となっており、それにより彼らはかなりの技術的な進歩をみせることができている。

◇ 仕立て職

他の国々と比べても、この産業はマルタにおいて第一級の重要性を有している。

ひとつの製造業として、この職業は全ての必要条件を満たしている。また趣味の問題としても伝統的な部類の職業である。しかし同職がやっているのは流行の組み合わせであり、鋏が辿るべき道筋を専制的に押し付けるような「つまり職人が自分の意志で」型を作り出すのではなく、模倣である。軍服はとても良い出来で、おそらく他国よりも上等かつ安価である。婦人服の仕立てに関しては他の文明国とも対等に勝負できるだろう。ただし、そのような些細なことで進歩と文明化の遅れた人々と比較されたくないなら、気候の影響による重大な変化を経験したことがない女性の不足は問題となるのかもしれない。

婦人帽子職人以外の洗練された人々は、ある種の人々を礼儀正しい野蛮人とみなすかもしれない。織物が製造されない場所であれば少なくとも最新の流行を手本とすべきだが、速度と熟達度には注意を払うべきであろう。この業種には約3,500人が従事しており、そのほとんどは女性である。

◇ レース編み

現在ではドレス全体がそれで作られるようになったレースは、厳密に言えば、もとは単にレースの縁飾りの延長上のものであった。このようなレースは、実際には4,500人以上の下層階級の女性や少女たちにとって幸運な生活手段であり、彼女らの作業が島に年間で4万5千-5万ポンドの収益をもたらしている。亜麻糸で織られた、難易度のかなり高い別種のレースが以前から島内には知られており、特に教会の祭服に用いられている。ゴゾ島で製造された黒と白の絹レースは世界的な声望を得ているが、無限の多様性をみせており、それは撚糸の細さや作品の寸法と意匠に準じて変化している。

マルタ産のレースは精巧で透けるような網状織物だが、何かの通例に従って作られるものではなく、それを基にして、常に対称に配列された様々な大きさの円形や多角形を囲う直線の系によって意匠が生じるのである。その成果が半ムーア半中国的な様式であるが、それめかなり明白な特徴とはいえ、その美しさはただ作業に用いられた技術と繰り返され継続される網細工の断片のみで構成されている。この業種でより多くの利益をあげるためには、我々は石材彫刻に対する扱い、すなわち嗜好と流行による制御のもとでより良い図案と新奇性を生み出したのと同様の提案をここでも繰り返したいと思う。

◇ 染物業

ごく少数の例外を除いて、マルタで行われる羊毛や絹糸、亜麻糸、綿花の染色は製品に対する評価を高める要素になっていない。なぜならマルタの染物業は欠陥のある染め方に拘り続けており、そのうえ衣料に用いる染料の種類がごく限られていて、一回目の洗濯時に衣類が色落ちするのを防ぐための適切な胡粉を用意さえしないからである。この業種には、毛織物や亜麻織物の商業的重要性が大きく依存するため、もっと良い経営管理が必要と強く感じる。

◇ つづれ織り業

かつてのマルタ騎士団教会を飾るタペストリーのような、他の追隨を許さぬ一連のつづれ織りの修復を委ねられた人物の技術と信用は、この新しく困難な部門の産業がマルタ人間に広がる原因となっている。揺籃期にも関わらず、既に輝かしい未来という心地よい希望を人々に与えており、不屈の努力で島がすぐにつづれ織りの修復に関して、そして間違いなく選んでもらえる値段の点でも、他国に比肩する立場になると我々は予想している²¹⁾。

◇ 養蜂業

動物性生産品に関わる産業のうち、蜂蜜の採取は抜きんでた地位にある。

昔の実務的な農学者の一人が行った見積もりによれば²²⁾、養蜂箱ごとに毎年24ポンドの蜂蜜と4ポンドの蜜蠟が採れ、農民に2ポンドの利益を残すことができるとのことである。

マルタ産の蜂蜜は、特徴的な辛みと特有の香気を持つもので、世界的に名声を博しており、海外で大きな需要がある。

◇ 食肉業

動物性生産品の産業は、例えば牛肉や塩漬豚肉、様々な種類の保存肉、豚脂、バター、塩

漬けのトライプ〔食用となる雄牛の第一胃または第二胃(胃壁を含む)〕など、多くの消費材
品目を食材の範疇に加えている。後述の品は長期保存ができ、年間で2万5千から3万ポンド
が商船に売られる(美食家のための美味で繊細な料理となる、塩漬けや燻製にされた羊肉や仔
羊の舌)。またオイルに保蔵された魚の塩漬けも作られている。しかし牛肉の価格とそれを捌
く費用からみると、同産業が今後奨励されるような余地を多く残しているとは思われない。

◇ 蠟燭作り

蠟燭の製造は海外から輸入された蜜蝋と国内の養蜂箱から採取された蜜蝋で行われている。
蠟燭は、教会や宗教上の祝祭で大量に消費されるのだが、約10社で製造されており、それらの
工場では、あらゆる形や大きさのものが生産されている。年間1万2千ポンド以上の蠟燭が、
特にバーバリ諸国やコンスタンティノープルから輸入された未加工の蜜蝋と、ウィーンから当
地に持ち込まれた、いわゆる「ケラシナ(cerasina)」〔詳細不明。ツヤハナバチ(ceratina)の
蜜蝋か。木蝋もしくは蠟燭の芯に用いられる素材と考えれば植物の可能性もある。その場合、
ウスバヒョウタンボク(Lonicera cerasina Maxim)に同名が見受けられるが可能性は低いか〕
で作られている。

◇ チーズ製造業

マルタの小型動物から得られる乳は、住民の日常使用のために必要な量を差し引いてから
チーズに仕立てられる。乾かすための籐製の籠に入れられて、小さな丸いチーズは成形され、
一部は島内、特に地方の人々によって消費される。残りはレヴァント地方やバーバリ諸国に生
か塩漬け、もしくは軟質のまま乾燥させた状態のどちらかで輸出される。また時がたつにつ
れて美味しさと風味が加わるので、数年間、瓶詰で熟成または保存される。主にゴゾ島で生産
されるが、この家畜生産物の輸出は11月から貿易が行われる6か月間で、一日で1,200マルタ
ポンド分が見積もられている。100ポンド分あたり2ポンドで計算すると、その価値は平均で
年に4,300ポンドの利益をもたらすことになる。一般に「最高級チーズ(fire cheese)」と呼ば
れる特別なチーズもゴゾ島で作られるが、同島には栄養がある牧草がふんだんにあり、その香
しい風味と芳香のおかげで、使用時には大概、他種のチーズ以上の高い評価を得ている。しか
し現在、このチーズはむしろ不足している。それは、採れる量は少ないものの、純度と味わい
では他の追随を許さないバターを抽出した方が利益になるとわかってきたからである。

◇ 狩猟

地中海の中央に位置し、山や森のないこの一群の島々では、狩猟は傾注すべき産業の一部門
とは考えにくい。狩猟は愛好家に運動の手段を提供し、獲物は市場への供給に極めて少量で偶
発的な貢献をするにすぎない。我々の狩猟は網罟か射撃のどちらかで行われる。我々の狩猟対
象には、兎や種々の家禽に加え、決まった時季に島に姿をみせる幾種かの渡り鳥も含まれる。
これらのなかでも主軸となるのは、コキジバト〔哀しげにクークーと鳴き情愛が深いとされる

欧州産の鳥] や4-5月と9月に姿をみせる鶉である。鶉は以前には島内にとても豊富にいたが、現在ではむしろ不足気味となっていて、減少の原因が何かはわかっていない²³⁾。

◇ 防腐処理業

この業種は、知名度があるものの2-3人だけが従事している職業であるが、鳥類や昆虫の素晴らしい所蔵品をかなり提供している。大型動物のミイラ化はめったに試みられない²⁴⁾。

〔原註〕

(11) 地理学者や旅行者がいうことで、我々が単なる冗談として受けとめているのは、この島々の地表を覆う農土が隣のシチリア島から持ち込まれているというものである。観察者の本当に驚くべき単純さにより、彼らは火山性の土壌を誤解せざるをえないようである。田畑の耕作土と一緒に、この土壌が当地にバラストとして持ち込まれ、続いてセメントとして用いられているというのである。勘違いは困難なはずだが、それにも関わらず、建造された世界中のあらゆる商船が一世間に渡って途切れることなく航行しても、平均海拔2フィート分の、つまり118平方マイルの地表を覆うだけの大量の土を隣島から運搬することなど不可能だろうという現実すら考慮することなしに、上記の話題は多くの人々によって受け入れられ、繰り返されている。それは初見で、マルタが不毛の岩礁で耕作と作物の生育には適さないと思われてしまったからである。

農土(マルタ島とゴゾ島で特有の42種類が存在)の網羅的な収集に加え、建築資材になるような硬い土は、公共土木工事監督官のE・L・ガリシア殿(マルタ土木技師協会)により厳密に等級分けされている。

彼からの返信より、ここでは以下の情報のみを提示するにとどめる。

「当地の土壌には第一級の硬質石材が18種あり、その内訳は11種がマルタ島、7種がゴゾ島でみつまっている。前者のうち一等ものが8種、二等ものが3種あり、後者では5種、2種となっている。等級の差は単に硬度と色味の違いによるものである。」

「第二級の石材、もしくは建築目的に使用される軟質石材には10種があり、そのうちマルタ島で知られているものが7種、ゴゾ島のものが3種存在している。前者は以下のように細分される。一等ものが3種、二等ものが2種、三等ものが2種。」

「この石材に加えて5種の鍾乳石(一般的には雪花石膏と呼ばれるもの)や、通常では大理石として知られる上質な石灰岩が13種ある。」

「第一級の硬質石材の目方は1立方フィートあたり125-155ポンドと異なっており、第二級(軟質)の場合は同107-120ポンドに及んでいる。1立方フィート分の硬質石材は2.9-10.3ポンドの水を吸収する。これは石材自身の目方の0.02-0.04、体積の0.04-0.16分を吸収する計算になる。1立方フィート分の軟質石材は10.8-16.4ポンドを吸収するが、これは目方の0.09-0.16、体積の0.17-0.26分を意味している。」

「カーコルディ氏により行われた実験の結果として、破砕もしくは破損する重量が、1平方フィートの硬質石材あたり160-546トン、軟質石材の場合は191-280トンであったことから、破損重量はその硬質性に従って変化するといえる。」

(12) 農芸展覧会が毎年開催されるようになって以来、農業は莫大な利益をあげている。古い耕作方法は改善され、新しい手法が加えられ、現在では一年中豆類を栽培する方法を習得できるようになった。

模範的な田畑は農業の進歩に大いに貢献するだろうし、そこでは説得が難しい人でもより良い方式の強みに気付くかもしれない。

(13) 三島の耕作地で産出された他の生産品の全てと同じく、公式統計では穀物食品は不十分な成果をあげるのみである。

収益の点からみて、1884年の農作物生産は以下のとおりであった。

小麦	9,703クォーター
小麦(低級)	5,320クォーター
大麦	2,910クォーター
綿花	3,847カンター
クミン	1,642カンター

上記の量はおそらく実際の生産高より低い数値である。いってみれば、豊作が土地所有者たちに地代を上げるよう仕向けるのではないかという恐れから、上記の生産品とその他の生産物は、原則として自身の年収を全く認めたがらない数多くの耕作人たちによって糾弾されることを覚えておく必要がある。

同様のことは動物、特に小型の動物についてもいえるかもしれない。統計報告では、三島で大小合わせて2万596頭しか登録されていない。

- (14) これらの情報を我々に提供してくれたのは、我々が有能かつ経験豊富な獣医外科学者のオディロン・バードン博士である。
- (15) この興味深い修復方法への言及によれば、故サー・ディグビー・ワイアット曰く「私はそれに匹敵するものを見たことがない」、またアルバート・ウォレン氏は「私に断言できるのは、これまで私がみてきたなかで、マモ氏が新しく考案した配合が金銀鍍金にとって最良の素材だということである」と述べている。
- (16) アントニオ・ガウチ氏はニスの網羅的な収集を提起している。有能かつ経験豊富な手により金属や特に木材に活用することで、少量のニスでも素材が安定した状態になることが期待できる。
- (17) アンジェロ・オラツィオ・アバラ氏は、1886年のロンドン植民地・インド博覧会に向けて開催されたマルタ産業博覧会への主要な貢献者のひとりである。わが国の綿糸と綿織物の網羅的な収集や、サルヴァトーレ・ダルマニン氏により小規模モデルとして幾つかの段階を縮小された製造工程に加えて、アバラ氏は自身が製造しているこの種のアルコール類の見本を展示している。既に確認したように高い度数と純度を誇るこの手の蒸留酒は、島内ではあまり有名でない一方、マルタ外では高く評価されている。これは将来的に利益を生む投機向けの重要な品目をなしている。

マルタにいる幾人かの腕の立つ職人たちがもつ技術の高さゆえに、整形外科用の工作場も同じく投機的な事業であるとわかるだろう。中央病院で雇われている一般的な大工が自身で作成した義足を披露しているが、それはロンドンやパリで最高の製造業者により作られた工作物と比べても少しも劣ったところがない。義足の木や革、鉄、銅の部分は全て、同じ大工の手により最高の精度で作られている。

- (18) この件に関して、多くの経験を有する博識な国民は、この重要な課題を著しく前進させるために未だに努力し続けており、いつか同産業の最も儲かる部門のひとつを人々が軽視するのをやめるよう説得できると期待している。この職業の実用的な知識と同様、理論的な知識も身に着けるために膨大な時間と資金を犠牲にしてきたルイーダ・ディアコノ氏は、ただ彼が海の無尽蔵の豊かさ、つまり彼の故郷で軽視されている産業について考えるために役立つことを知っておきたいだけであろう。今のところ彼に耳を貸す人はいないし、彼がその人たちの利益のために骨を折っているにも関わらず、その人々によってさえ理解されることはないのである。
- (19) これは喜望峰固有種の中型低木である「実り多きアスクレジア」(*Asclepias Fructicosa*; pentandria diginia) のことである。この植物は高温気候かつ不毛で未墾の土地において成長する種で、マルタでは非常に多く繁茂している。

伐採するとその樹皮からは白癬の治療に役立つ非常に苦い乳白色の液体が流れだし、日陰で干した根からは非常に強力な下剤が抽出される。茎や浸漬された枝は強靱な縄を作るのに用いられるが、これは滅多に千切れないものとなる。果実には多くの種が含まれているが、これは光沢のある頭部を持ち、数多くの非常に柔らかい繊毛で覆われ、金色をしており、糸状に加工されたり幾つかの製品に有益だと思われたりしている。その他多くの精巧な生産品とともに、パオロ・ラフェルタ師がこの植物絹の良い見本を出品している。

- (20) ロレンツォ・ファルージャ・バグジャ氏は以前よくこれらの船荷を運んでいた。また、これらの島々から発送された獣皮や皮革と、海外の同じ動物で作られたそれらとの違いは、極めて大きい。それは、偶然混ざってしまい、しかも固有種の動物でもない数千例のなかからでも、パリの製造業者たちが該当するものを容易に区別し選り分けることができるほどである。いつかは大きな利益が、この島々に豊富にいる柔毛で覆われた兎の白い毛皮から得られるかもしれない。
- (21) つづれ織りについて。これらの繊細な作業に関して、ルイーダ・バルミエリ氏は忍耐強く熟練した腕前を持つ女性を雇用しているが、彼女はのみ込みが良く、驚くほど上手くやれている。マルタの聖ヨハネ教会にあるタバストリーの修復は、他に比肩するものがないほどの出来である。ルーベンスがその天才の痕跡を残すも放置や時間の経過を通じて大部分がボロボロになったこれらの巨大な図柄は、バルミエリ氏の指示のもと、現在、いってみれば補修部分を隠す手腕と時の流れに堪えうる技量の確かさゆえに、極めて新品の状態になっている。

この修復方法は新しいもので、これまで主要な工場で用いられていた手法よりも優れている。このような有益な産業がわが国で動き始めた場合、もし正式に奨励されれば、地方の労賃が安いせいでレース編み以上に儲かる商売となるだろう。

② 養蜂については、聖職者のセレスティン・カミレリ博士が特に言及している。

③ 狩猟の季節に入ってマルタに来訪する渡り鳥は以下のとおりである。

網罟で捕獲されるものは、

マキバドリ (*alauda*)、ズアオアトリ (*fringilla*)、ゴシキヒワ (*fringilla-cardulis*)、

アトリ (*fringilla spinus*)、アオカワラヒワ (*fringilla chloris*)、小型の鳴鳥全て

猟鳥として我々はコキジバト (*columba tortur*) を飼育しており、それは時折、特に4月や5月に群れをなして飛行する姿をみせる。

以下の動物は猟銃で仕留められる。

鶉 (*perdix coturnis*)、千鳥 (*charadrius pivianus*)、ダイシャクシギ (*charadrius molinellus*)

以下のものも時々みつかると。

タゲリ (*vanellus christatus*)、雌鷄 (*rusticula vulgaris*)、セイタカシギ (*tottanus glottei*)、

鷺 (*ardea cinerea*)、水鷄 (*rollus aquaticus*)、緑首鳥 (*acnos boscos*)、雁 (*anser segetum*)

上記の種の幾つかは現れるのが稀である。梟は特定の時期にたくさんいる。時期が来るとこの国を捨てて去っていく雀(または *thalassidrome melitensis*) は、この国にとっても豊富にいて、かつ猟鳥に数えられないマルタ固有の鳥である。

④ 島内では4名の剥製師を知るだけである。彼らは鳥類や甲殻類、魚類、四足獣、昆虫類で訓練を重ねており、それらに硬化剤を詰めてうまく保存している。これらの詰め物を入れられた動物の大規模な所蔵品が島内には存在し、その多くが他の国々に送られる。剥製師のひとりであるボラック氏はこの詰め物をした鳥をフランスやイギリス、イタリアに既に7千体以上送り出している。

(みづた ともりのり 歴史学科)

2018年11月13日受理

